

思い感じたことを
徒然なるままに

くんぱるたより

H28 4/30 NO.62



☆ これがくんぱるハウスです

新年度が始まりました。ウキウキの入学式、誰と一緒にワクワクの始業式が終わり、新しい環境にちょっぴり慣れてきたでしょうか？特に、新一年生のお家の方がたはなおのこと。すこーしは肩の力が抜けてきたでしょうか？気がゆるみ、体調が崩れやすくなりますので、十分気を引き締めて楽しい！GWにしましょう。

さて、いきなり固い話。**現在の学習指導要領は、子どもたちの現状をふまえ、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視しています。これからの教育は、「ゆとり」でも、「詰め込み」でもありません。次代を担う子どもたちが、これからの社会において必要となる「生きる力」を身に付けてほしい。そのような思いで、現在の学習指導要領を定めました。「生きる力」を育むためには、学校だけではなく、ご家庭や地域など社会全体で子どもたちの教育に取り組むことが大切です。子どもたちの未来のために。**この文章、文科省のHPに書かれております。学習指導要領というのは幼小中高での教育課程の基準となるもの。平成23年からこの理念のもと教育課程が組み立てられました。その前はいわゆるゆとり教育。ゆとりの響きは決してよくないですが、それは「ゆとり」を「ゆったり」と勘違いしたためであると私は考えます。では生きる力って？これも書いてありました。

「生きる力」=知・徳・体のバランスのとれた力

変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育てることが大切です。

当たり前のことを当たり前にならねば、ということなのでしょう。しかし、こうして目標として置かれてしまうところに現代の教育の問題点が見え隠れします。要するにバランスが取れていない子どもが育ち、目立ってきているということなのでしょう。

現代の子どもが置かれている環境は我々の幼少時代よりも「当たり前」が多く、与えられる、やってもらえる環境の中で育ってきております。聞けば教えてくれる、言えばやってくれる。黙っていても持ってきてくれる・・・など前述の思考力や判断力なんてものを突き詰めなくとも日々成り立ってしまいます。例えば、大人が先に口を挟んだり、手を貸したりしてしまう環境のお子さんは顕著に「当たり前」が現れます。また、子どもの世界に親が割って入ると当然おかしくなります。子どものことは子どもに任せる、親がどしんと構え、見守る。ここはという部分は教諭。見守るのが保育であり、教諭するのが教育であると思います。それができるのは我々大人たちです。子どもは我々以上に無限の可能性を持ち、我々以上に適応する力を持っております。くんぱるの様子を見ていると、なんやかんやある程度のことは、子どもたちだけでクリアしていけるようになります。それがもともと出来ていたかというところではなく、結局は環境と習慣かと思っております。それが一年生だろうが六年生だろうが理解できる範囲の違いがあれど、やればできるようになるのです。

会社も、何でもかんでも口を出しすぎる社長や上司だと社員は育ちません。やる気も出ません。「とりあえずやってみなはれ。なんかあったら助けたら」くらいの上の人の職場には活気があるはず。子育ても同じで、「いい・加減」が必要。力を抜きましょう^^我々も少しでもお家の方の負担の緩和、未来を担う子どもたちのために「生きる力」を身につけられるよう力になれたらと思っております^^

